

学校生活は家庭での生活態度と無関係ではなく、家庭は最小単位の社会とし、学校はもっと大きな社会であり、その一員である子ども達にもしなくてはならないことがあるはずです。そして、先生達はもちろん、いろいろな事情を背負った同年齢の子ども達が集まる学校で、様々なことを学べる環境の中にあることは、とてもラッキーなことです。この私の考え方を、子どもの成長と共に言葉を変えテーマを変えて、何度となく話して聞かせました。ですがこれだけでは、子ども達が「学校での生活」を考えさせるだけに過ぎません。

子どもを通して教えられるアメリカの教育とは、私にはよき市民を作ることとを目的の一つとした教育だと写りました。“Citizenship”についていろいろと学んでいる学校へ、子ども達自身が喜んで行けるようにすることや、学校でのパフォーマンスをよいものにするためのサポートは、家庭での一番の仕事でした。

### <自分で考える>

現地校から出される宿題や課題について、子どもに聞いた後、授業参観で授業の様子を見たりしますと、教科を問わず、物事を論理的に考えたり分析したりするトレーニングを基本とした教育が施されていることに気がつきます。目的は、物事を考えるには手順があり、その方法を教えるためのもののようなのです。

数年前、夫から、「日本の教育関係者の間で話題に上っている『ドラゴン桜』というマンガがあるのを知ってる？」と聞かれたことがあります。ストーリーは、落ちこぼれと言われる生徒を東大へ行かせるべく、学外から雇われた教師陣のいろいろな論点やノウ・ハウが載せられて、既存のマンガとは少し趣が違います。夫のそのマンガに対する興味は、論理的な小論文の書き方にあつたようですが、マンガの中にかかれていたことは、アメリカの現地校で教えられるエッセイの書き方によく似ています。そして、「ドラゴン桜」も現地校でのエッセイの指導も共通して訴えることは、人はものを書く前に、物事を考える力なくしては書けないとあります。

現地校ではそれを小学校低学年という早い段階から、授業の中に“false or truth”、“compare & contrast”や“cause and effect”で構成された文章や、あるいは先生から与えられる課題の中から、選択し、比較対照したり分析したりすることで、結果を導き出す練習を繰り返しやらされ、身に付けさせられます。また、それぞれの教科でアカデミックな理論を習った最終節にはかならず、「あなたならそれをどう活かしますか」や「あなたならどう考えますか」などといった“critical thinking”という質問があり、自分自身の言葉を使うことや意見を持つよう教育されます。その教育は、自分の書く文章や話すことに矛盾がないか、論点がずれていないか、訴えたいことがきちんと相手に伝えられるかということ、



自分で導き出せるように繋がっていきます。これは、長い時間をかけて、私が現地校の教育について子ども達から教えられた、「ものを考える」指導方法の一つの例に過ぎません。

どんな人を「よき市民」とするのか、それを教えるのは私の役目ではありません。それを考えるのは子ども達自身です。それを考える方法は、学校でしっかり身に付けさせられ、そうできるように教育されているはずですから。

### <ころばぬ先の杖のゆくえ>

1歳の誕生日を迎えたナルちゃんを観察しながら、姪には「子育ての究極は『大人のまね』と『大人の刷り込み教育』ね」と、つい自分自身の子育てについて本音を漏らしました。我が家の子ども達のこれからの、私たち夫婦が示唆した「ころばぬ先の杖」がどのような影響をもたらすのか、その「ゆくえ」はこれから見えてくるはずです。



#### 松本 康子 (まつもと やすこ)

1979年、夫の留学で、1歳半の長女を帯同し渡米。その後、アメリカで次女、三女を出産。専業主婦として子育てと教育を担当。

子ども達は、親から見てうらやましいバイリンガル・バイカルチャーの大人に育ちました。しかし、「アメリカで日本人の子どもをバイリンガルに育てた」私が、実は、子どもに育てられていたのです。このコラムでは、「海外でともに育った母と子」の姿を紹介させていただきます。

皆さんの海外での子育ての参考になりますでしょうか？



駐在員のご家庭で、渡米して3・4年経つと、「子どもがしっかりと自己主張をするようになった」という話をよく聞きます。たとえ純日本的な家庭であっても自己主張が強くなっていく変化は、アメリカの学校で教育の成果(?)です。

しかし、アメリカでは親の考えや文化を元にした家庭教育が大きな役割を果たします。日本のように「教育=学校」ではないのです。康子さんのいう「大人の真似」は、親の考え方・生き方をまねることで、「親の背中を見て育つ」日本の育て方と共通するのではないのでしょうか？